

大規模地震の緊急対応（授業中を想定）

	授業担当教師	授業の無い教師	校長・教頭
発生	<ul style="list-style-type: none"> ■授業担当教諭は、生徒に窓やロッカー等から離れ、机の下に潜るように指示する。 ■安全確保及び身を隠す所がない場合は、落下物から身を守るよう本などで頭部を保護し、低い姿勢をとるように指示する。 ■火気を使用中の場合は、直ちに消火し、ガスの元栓を閉め、電気器具のコンセントも抜く。 ■出入り口を開放するなど避難口を確保する。 		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">情報収集・対策</div>
揺れの終息	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒の動揺を抑え負傷の有無や負傷の程度、避難時の安全（教室及び教室周辺の被害状況転倒・落下の危険性等）を確認する。 ■生徒の不安を増大させないよう、原則としてその場を離れない。「落ち着きましょう。けがした者はいないか？ 次の指示があるまで安全確保して待ってください。」 	<ul style="list-style-type: none"> ■分担して各教室等に急行し、授業担当教師から生徒等の状況を聞き取る。 ■避難経路や避難場所の安全性、校舎の被害状況等を確認して管理職に報告する。 ■負傷者がある場合、養護教諭と連携して応急措置にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■状況を正確に把握し、負傷者の救護や避難の方法を決定する。 ■テレビやラジオ等で地域における被害状況を把握する。 ■学校の被害状況を踏まえ管理職の判断により対策本部を設置する。
避難	<ul style="list-style-type: none"> ■指示に従い、生徒の避難を開始する。避難指示、押さない、走らない、しゃべらない等、落ち着いて行動するように指導する。 ■教職員は、出席簿により人員確認及び負傷者の状況確認を速やかに行い、学年主任→管理職に報告する。 押さない・駆けない・しゃべらない 	<ul style="list-style-type: none"> ■避難経路、避難場所において誘導と安全確保に努める。 ■校内放送が使用できない場合は、ハンドマイクを用いて中庭側から伝える等の確実な伝達方法により、各教室に避難指示を伝える。指示伝達の確認も必ず行う。 ■逃げ遅れた者等がいらないか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■揺れが収まり避難経路及び避難場所の安全性が確認できた後、教職員や生徒に校内放送等で避難の指示を行う。 【避難時注意】 ■ドアは開放して避難する。 ■ガラスや落下物に注意し、頭部を守る。■いったん避難したら再び中には戻らない。
安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ■担任は、出来るだけ生徒のそばを離れず、動揺を抑え、安全を確保しながら指示を待つ。ただし、負傷者が多いときは、指示に従って、元気な生徒も仲間の応急手当に加わる。 ■管理職は、生徒や教職員の負傷の程度に応じて、速やかに救急車を要請するとともに、教諭等による救護班を組織し対応を指示する。 ■生徒や教職員が負傷した場合は、保護者や家庭に連絡する（連絡不能の事態も考えられる）。 ■教育委員会に学校の状況を報告し、必要があれば指示要請を行う。 ■施設設備の点検を行い、安全を確認し、必要に応じて立入禁止措置と事後の対応を行う。 ■県内、町内の被災状況等を関係機関や地域の情報から正確に把握する。 ■通学路の安全確認や交通機関の運行状況を確認する。 ■生徒を下校させる場合は、地域の状況、保護者と連絡が取れるまで学校に待機させる。場合によっては、校内に宿泊させることもある。 		

休憩時間中は放送で指示。担任・副担が急行する

- ★震度4までの地震であっても、生徒の動揺・余震の可能性が考えられる時は避難する。
- ★登校前に起こった時は、保護者の判断で登校を遅らせてもよい。